

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

「善の巡環」が成長へ導く 大谷裕 (YKK会長)

1. 企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ存続できるし、その利点を分かち合うことで社会から存在価値を認められます。当社の創業者、吉田忠雄は事業を進める上でこの点に最大の関心を払い、お互いに繁栄する道を考えました。当社はこの考え方を「善の巡環」として、事業の基本としています。
2. 例えば、ものづくりにおいて、それぞれの工程の担当者が自分の工程だけを考えていたら、ファスナーをより速く、より安くつくことはできません。それができるのは、それぞれの工程が別の工程のことも考えてきっちりバトンを渡すからであり、これが善の巡環の一つの例です。
3. どんなに素晴らしい内容であっても、社員には日々の業務の中で、善の巡環を実践できているかを実感してもらわないと、やはり納得感が得られないでしょう。だからこそそれを伝えていくのは経営の役割だと思います。いろいろの場面で伝えていましたが、その一つが「車座集会」です。

(参考:「日経ビジネス」2025年7月14日)

経営者のための危機管理

競争力は世界35位に低迷

A I活用と技術者強化が日本経済復権の鍵を握る

1. スイスのビジネススクールである国際経営開発研究所 (IMD) が発表した2025年版の世界競争力ランキングで、日本の競争力は69の国・地域の中で35位だった。前年より三つ順位を上げたものの、連続で1位を記録した1990年代前半を思えば、寂しい限りだ。
2. また、24年版のデジタル競争力ランキングも31位と振るわない。人材やビジネスの俊敏さで大きく劣っており、特にデジタル技術のスキルは最下位というのが主因だ。01年にeJapan戦略を掲げ、5年後には世界最先端のIT国家になると豪語した勢いは、今や見る影もない。
3. 24年のスマートフォン普及率は74.4%となり、すでに4人のうち3人がインターネットにつながるデジタル社会だ。同経営者オピニオン調査は、今後最も重要なビジネストレンドはA I活用だと指摘しており、デジタルのみならずA I活用を前提とした社会へと変貌していくだろう。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2025年8月30日号)

ワンポイントアドバイス

企業とは先行投資、健全な赤字部門を持つべきだ 宮内義彦 (オリックス・シニア・チェアマン)

1. ガバナンスが利いていない会社には物言う株主が群がる。物言う株主にとって、日本は最もおいしいマーケットだといわれている。外野から何か物を言われないと決断できないのでは、その企業の取締役会はいったい何をしているのか、ということだ。
2. そもそも外野からの声には、いいかげんなものが多い。物言う株主の提案の多くは、余剰資金の分配や事業の選択と集中を行え、というものだが、これは間違っている。米GE (ゼネラル・エレクトリック) のジャック・ウェルチ氏の言もあり、そう考える経営者が多かったようだが、私は企業とはつねに先行投資、健全な赤字部門を持つべきだと考えていた。儲かっているものだけに集中してしまえば、その会社の成長はいつか止まってしまう。
3. 多くの日本企業には改善文化が染み付いているが、どんなにエンジン自動車を改善しても、優れた電気自動車を急に造れるものではない。今儲かっているもの以外の領域で非連続の事業を生みだしていくことが重要だ。(参考:「週刊東洋経済」2025年7月26日号)

古典に学ぶ

こんな毎日を過ごしたいという願いを大事にしていく

1. 僧侶にならずとも、この幻のような現実世界を生きいく方法があります。この身はいつ消えるともせず、将来も保証されていないからその世界で生きていくのですから、その世界を大切にすればいいのです。
2. いい換えれば、現実の世界で、自分自身が抱えている夢、こうなりたいという希望、こんな毎日を過ごしたいという願いを、思う存分大事にしていけばいいのです。

(参考: 名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」: 河出書房新社)